

(仮称) 富谷市民図書館整備
富谷市デザイン会議

平成 31 (2019) 年 3 月

富谷市教育委員会教育部生涯学習課
図書館開館準備室

1 富谷市デザイン会議について

平成 30（2018）年 11 月に公表された（仮称）富谷市民図書館整備基本計画（案）の内容を改めてご報告するとともに、より実現性の高い内容とするために、皆さんで意見交換を行うもの。

1.1 開催日時

平成 31（2019）年 2 月 17 日（日） 13：30～15：00

1.2 場所

富谷市役所 1 階 市民交流ホール（富谷市富谷坂松田 30 番地）

1.3 参加者数

76 名（取材者 2 名を含む）

1.4 事務局

【富谷市】

- ・菅原義一（富谷市教育委員会 教育長）
- ・小山温（富谷市教育委員会教育部生涯学習課図書館開館準備室 室長）
- ・三浦郁（富谷市教育委員会教育部生涯学習課図書館開館準備室 室長補佐）
- ・麻生川敦（富谷市教育委員会教育部生涯学習課図書館開館準備室 生涯学習専門指導員・相談員）
- ・高野千草（富谷市教育委員会教育部生涯学習課図書館開館準備室 主事）

【アカデミック・リソース・ガイド株式会社】

- ・岡崎有彩
- ・宮田和樹

1.5 メディア

新聞社及び TV 局の取材あり

1.6 プログラム

時 間	内 容
13：30～13：35（05分）	富谷市開会あいさつ、開館準備室紹介
13：35～13：45（10分）	富谷市の基本姿勢と本日の会議について
13：45～14：00（15分）	基本計画（案）の説明
14：00～14：50（50分）	全体ワーク「管理運営計画へ向けての意見交換」
14：50～14：55（05分）	本日の全体ワークのまとめ
14：55～15：00（05分）	富谷市閉会のあいさつ

2 富谷市の基本姿勢と基本計画（案）の説明

別添 「（仮称）富谷市民図書館整備 富谷市デザイン会議 資料」 をご覧ください。

3 全体ワーク「管理運営計画へ向けての意見交換」でのご意見

管理運営計画策定（平成31年度予定）に向け、図書館の具体的なサービスや管理・運営の内容のうち特に重視したい事項についてご意見をいただきました。

いただいたご意見を参考にしながら、継続した市民協働の取組みの中で管理運営計画を策定していく予定です。

3.1 富谷市民図書館全体について

- ・生涯学習を重視し、拠点地域の課題解決に取り組み、地域が元気になる図書館になってほしい。
- ・文化をつくり、発信していくという大事な役割を担う図書館となってほしい。
- ・単に本を借りるだけの場ではなく、デジタル化が進む現代においても、コミュニティ形成の場としての図書館のあり方は、今後も続いていくものであり、これからも大事にされるべきである。

3.2 ネットワーク型図書館について

【センター館と分館について】

- ・センター館の充実が最重要である。
- ・センター館と分館を同じような質・カラー・選書とした場合、来館者はセンター館に集中し分館へ来館することは少なくなるだろう。この本はこの館というように、センター館と各分館を目的ごとにカラーを分けることで、この本が読みたいからこの館に行く、と足を運ぶきっかけになるだろう。

【ネットワークについて】

- ・コンピュータ等でつなぐ図書館システムというネットワークと、人とのつながりなどのネットワークとを分け、それぞれがどれだけ実現できるかを考える必要がある。センター館・分館・学校はどちらのネットワークも当初からつながっていなければならない。しかし、郷土資料関係施設や子育て関係施設とのネットワークは、後から市民が育てていけるものとする。
- ・子供や高齢者などの交通弱者のためにも、図書館を通る市民バスのルートを設定するなど人を配送するシステム（ネットワーク）を構築し、足の運びやすい図書館となってほしい。
- ・移動図書館・出前図書館を行い幼稚園や保育所に貸し出ししている自治体もあるので参考としてはどうか。

3.3 蔵書について

【蔵書全体について】

- ・富谷市が目指す 200,000 冊は、図書館協会の望ましい基準からは 50,000 冊不足することになる。その中でも蔵書を充実させるために、購入費のかかる専門書等は宮城県図書館や仙台市図書館などからの相互貸借で補う視点があっても良いと思う。一方で、入門書となる学習漫画、より専門知識に踏み込んだ新書を重点的に配置し、限りある蔵書の中でも、様々な学問・知識の入口になり得る資料に多く触れられる環境となってほしい。

【学習漫画について】

- ・本に親しむきっかけ、その物事に対する興味を持つきっかけとなる学習漫画を充実してほしい。
- ・哲学など成人向けの学習漫画も多く出版されており、生涯学習として若い頃は取組めなかった、触れられなかった分野への学びを深めていくことにつながっていくと思う。
- ・学習漫画の選書については、子供が読む本が漫画だけに偏らないよう慎重に行ったほうが良い。漫画だけではなく、様々な方法で詳しく学んでいけるような図書館となってほしい。

【電子資料について】

- ・実際に本に触れ、出会う場、人とのコミュニケーションの場、情報収集の場など、リアルな図書館としての良いところ、意義がたくさんある。図書館に行かなくても済む電子書籍と合わせ、それぞれの良いところを強化していけたらと思う。
- ・電子書籍については、富谷市だけでなく日本全国で考える問題である。
- ・電子書籍が主流になったとしても、紙面で読むということ自体はなくなるだろう。
- ・便利さや手軽さから電子書籍を選ぶ利用者に、図書館を訪れたいと感じさせるためには選書やコミュニティ活動等への工夫が必要。
- ・基本的に紙媒体中心がよいが、将来的に必ず受け入れなければならないであろう電子書籍に関しては、利用者や現場が困らないよう、選書会議などしっかりとした考えの下に少しずつ取り入れて行く方針がよい。
- ・普段興味がなく、見ないようなコーナーで面白そうな本と出会い、世界を広げていくきっかけの場となることが図書館の大切な役割である。今後電子書籍の検討は必要であるが、現段階では実際に図書館へ行き、触れる紙媒体の本が中心でよいと考える。
- ・電子書籍では一般的な読み物だけではなく、富谷市に関する電子資料の充実を考えていてほしい。

【富谷の資料について】

- ・現在の公民館図書室にはほとんどない富谷に関する資料を集め、誰でもいつでも気軽に手に取れるようにしてほしい。

3.4 機能配置について

【開架スペースについて】

- ・文部科学省がうたっているように障害者に利用しやすいよう、書架と書架の間のスペースをゆったりとる配置の仕方、面積の取り方をしていく必要がある。

【交流スペースについて】

- ・交流スペースを重視した整備をしてほしい。
- ・静かなスペースだけではコミュニケーションがとりづらいため、自由にお話をしたり子供が騒いだりできるスペースを設けてほしい。
- ・成田公民館 1 階部分を児童開架スペース及びおはなし&ふれあいスペースにした場合、新築部分と離れていることから、親子での時間の共有が難しくなるだろう。リノベーション部分は開架スペースや事務スペース、ボランティアスペースとして考え、交流が各世代で一体化して持てるような配置を希望したい。

【学びのスペース・ネットワークスペース】

- ・基本計画には Wi-Fi 等のインターネット環境整備の記載があるが、学習スペースの利用者や静かに本を読みたい方々の妨げにならないよう配慮した施設のレイアウトが必要である。
- ・小中学生、高校生、大学生だけではなく、社会人や高齢者も静かに学習できる場を求めているため、しっかりとした広さを確保してほしい。

【保存書庫】

- ・閉架スペースも相当必要となる。

【管理・運営スペース】

- ・小中学校との連携において本を配送する際の車のスペース、事務手続きのスペースが必要である。

3.5 規模について

- ・蔵書冊数の多さ少なさよりも、一冊の本との出会いを提供できるような専門職員がいることが大切であり、この点に取り組むことで冊数の問題なども緩和・充実されていくと考える。
- ・コミュニティの場が十分に確保できる規模なのか。
- ・目的の本以外の本と出会い、人と人が出会う、という図書館の大きな役割を果たすために蔵書数や広さを今一度検討してほしい。
- ・今後デジタルデバイスが主流になることを見越し、規模及び各部分への費用のかけ方、事業費の見直しが必要ではないか。
- ・2 階、3 階構造にする、成田公民館敷地内でより面積の取れる場所に整備するなど、規模について検討することはできないのか。

3.6 その他

- ・以前うたわれていた「次世代型図書館」はどうなったのか。
- ・財源 8 億円のうち、3 億円を寄附という他力本願な方法に頼るべきではない。

いただいたご意見を踏まえ、平成 31 年 3 月 31 日付けで富谷市図書館整備基本計画を策定いたしました。今後も市民の皆さんとの協議の中で図書館整備に努めてまいります。